

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

その夢は、きっと世界を変えていく。
The dream surely changes the world.



Contents

- P.2 「現在の夢」、中国大使館訪問
- P.3 第42回交流会レポート



マザー牧場にて

- P.5 第43回交流会レポート
- P.9 SPECIAL REPORT
- P.11 竜の子近況報告(現役生)
- P.15 竜の子(OG・OB)近況報告
- P.16 編集後記

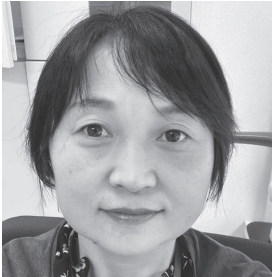
第 30号
Mar. 2023



作画：魏 登輝（平成23年竜の子奨学生）



現在の夢



ハタケギョク
朴敬玉

1977年 中国吉林省生まれ
2000年 日本留学
2008年～2009年
竜の子財団在籍
2011年 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了、博士(社会学)取得
日本学術振興会外国人特別研究員(PD)、一橋大学経済学研究科特任講師などを経て
2022年より帝京大学経済学部 准教授

中学・高校時代、近所の大学の自習室でよく勉強していましたが、いつか自分も大学で学生たちに向けて授業をする先生に、そして研究者になりたいと思っていました。中国の大学を卒業後、その夢を抱き、日本に留学して、大学院で勉強を続けました。本当に研究者になれるだろうかと自信を無くし、迷った時期もありましたが、留学生一人一人の夢を大事に、勉学に専念できるように惜しまず支援をして下さる竜の子財団と出会ったことで、自分の夢に向けて大きな一歩を踏み出すことができました。経済的な支援だけではなく、交流会を通じて、日本の文化を体験し、仲間との交流を深め、家族のような絆を感じさせてくださった竜の子財団には感謝の気持ちでいっぱいです。秋元竜弥理事長、寄付者の方々、財団関係者の皆様には、心から深く御礼申し上げます。

長い道のりではありましたが、昨年4月から、帝京大学経済学部国際経済学科で准教授として働いています。諦めず、頑張れば夢は必ず叶うと信じています。そして、夢が実現できるように支えてくださったすべての方々に心より感謝しております。

現在、日本・中国をめぐる国際環境や経済環境はどんどん変化しています。中国経済は大きく成長しましたが、日中間の政治関係は不安定要素が増えています。相手に寄り添いながら、グローバルな相互理解を深め、感謝の気持ちを忘れない人材を育成することが、私の現在の夢であります。そして、中国の社会経済史研究や有機農業に関する研究をさらに進め、「人や国の不平等をなくし、平和と公正をすべての人に」与えられるように、「地球環境の改善のために」日々精進してまいりたいと思います。

私の授業に出ている学生たちから「より多面的に深く中国社会を認識することができた」、或いは「東アジアの社会と経済に関する理解と知識が深まった」といった感想を聞くと、たいへん嬉しく、やりがいを感じます。私は自分の考え方と生き方、もしくは後ろ姿で若者たちに意味のある何かを伝えていけるような、そんな教育者・研究者を目指しています。

私たち一人一人の夢はきっと世界を変えていくでしょう。



中華人民共和国駐日本国大使館を訪問し、陳麗萍参事官、于海鵬二等書記官と留学交流についての意見交換をさせていただきました。

今後も日中の相互理解に努め、両国の架け橋となるような人材育成に寄与してまいります。



中国大使館にて陳参事官と

第42回交流会レポート

令和4年9月3日、竜の子奨学生第42回交流会が行われました。今回の交流会は千葉県で開催され、午前中は千葉県の鴨川市太海浜で釣り体験をし、午後は富津市田倉のマザー牧場で大自然と触れ合いました。竜の子奨学生達は、豊かな自然や動物達との触れ合いをたっぷり満喫し、ゆったりとした時間を過ごしました。

奨学生達は、3日午前7時50分に竜の子財団事務所前に集合し、観光バスで千葉県に向かいました。バスに乗った直後は、皆元気に会話を交わして盛り上がりましたが、バスが発車すると間もなく、ほぼ全員が爆睡してしまいました。バスの窓からは高層ビルが次第に見えなくなり、2時間後、ようやく目的地に到着しました。バスを降りた瞬間、目の前の景色に魅了されました。果てしない海が目の前に広がり、点々としている岩が海を飾っているように見えます。見上げると綺麗な青空。素晴らしい風景を前にして、感動の気持ちでいっぱいになってしまいます。



太海フラワー磯釣りセンターにて

まず釣り体験のために、太海フラワー磯釣りセンターに向かいました。釣り体験をする前にまず竿をもらい、説明を聞きました。浮きが非常に重要なサインとなり、水面下に沈む場合は、魚がかかっており、竿をすぐにあげると釣れます。また、針に餌をつけるのにもコツがあり、エビ餌の場合は、エビの尻尾からハリを入れて、できるだけ背中側を通すようにします。切り身餌の場合は、皮の方からハリを刺し、貫通させたあと、針を180度ひねり、内側に向けて、身側から皮側に向けて針を再度刺します。もう一度皮側から身側に針を刺したら完成です。スタッフさんによると、餌の種類によって釣れる魚の種類も変わるそうです。全員がスタッフさんから指導を受けた後、早速釣りを始めました。殆どの奨学生が初体験だったので、最初はな

かなか釣れませんでした。途中、スタッフさんが来て下さり、ご指導いただいたりしているうちに、だんだん釣れるようになってきました！強い日差しにも負けず、全員で真剣に釣りに挑戦しました。



釣りをしている奨学生達



魚を釣った王さん

約2時間釣りをした後、観光バスで次の目的地である富津市田倉のマザー牧場に向かいました。到着するとちょうどお昼の時間で、まずジンギスカンの昼食を食べまし

た！奨学生達は三つのテーブルに分かれて、自ら肉と野菜を焼きながら食べました。私は、久しぶりの羊肉を非常に美味しくいただきました。ほかの奨学生たちも羊肉の美味しさを堪能したのではないかと思います！昼食を食べ、少しの休憩を挟んだ後、皆でマザー牧場内を回りました。マザー牧場は非常に広く、動物のエリア、お花のエリア、遊びのエリアなどに分かれています。全部は回り切れないので、三つの班に分かれて行動することになりました。バンジージャンプに行く班もあれば、私たちの班のように動物エリアを回る班もありました。



バンジージャンプに行く班のメンバー



空を飛んでいる権さん

標高321mの房総の山並みと東京湾を見おろしながらバンジージャンプをするのはとても気持ち良さそうだが、遠い所からバンジージャンプの班の皆さんの叫び声がよく聞こえてきました。

我が班は動物エリアを周り尽くし、牛、アヒル、カピバラ、馬、羊などの動物たちといっぱい触れ合いました。さらに、私にとって人生初の乗馬体験もしました。最後は朝顔で埋め尽くされているお花エリアで、お花の海を楽しみました。



動物と触れ合う私たちの班のメンバー



お花の海にて自撮り

午後6時ぐらいに、今回の交流会がお開きになり、帰宅の途に就きました。あっという間の一日でしたが、忙しい日々を送っている奨学生の皆様にとってはきっと貴重な息抜きになったと思います！今回の交流会を通じて、竜の子財団と奨学生、また奨学生同士の絆を深めることができました。さらに、普段は全国各地の大学で学んでいる奨学生達が財団の方々の温かい気持ちに触れ、日々の勉強や就職活動をもっと頑張ろうという励みになったと思います。

(担当：令和4年度竜の子奨学生 名古屋大学 冀 媛媛)

第43回交流会レポート

竜の子奨学生第43回交流会として、世界の様々な食文化を紹介し、異文化の素晴らしさを味わう「母国料理交流会」が、令和4年12月10日に東京で開催されました。奨学生たちは料理の腕前を見せ合ったり、お互いの料理を味わいながら語り合ったりして、友情を深めることができました。

昨年末、竜の子財団では、奨学生たちの学生生活を豊かにする目的で、母国料理交流会を開催しました。コロナ禍以降、グループ活動の機会が少なくなっているため、奨学生たちは交流会を楽しみにしています。今回の交流会では、奨学生たちがそれぞれの母国の得意料理を作り、楽しい雰囲気の中でお互いの料理の技を披露したり、美味しい料理を頂くことで、さらに絆が深まりました。非常に素晴らしい交流会となりました。

交流会当日午前9時、奨学生たちはサミットストア神田スクエア店に集まり、新鮮な食材や調味料を買いました。買い物が終了するとキッチンスタジオに移動しました。移動中、久しぶりに会った奨学生たちはそれぞれの近況を楽しく報告し合いました。キッチンスタジオに到着すると、皆で役割を分担し、料理用の器具を用意したり、食材を下処理したりした後、母国の美味しい料理を作り始めました。調理中も、皆ずっと笑顔で、得意な技をお互いに学び合い、雰囲気も盛り上がりました。



美味しい料理を作ろう

2時間後、それぞれの母国の料理が完成しました。見た目、味、香り、どれも完璧で、レストランのシェフに負けないくらいの出来栄でした。皆の食欲も刺激され、温か



皆で作った料理
(左から：カンボジア、タイ、スリランカ、ネパール、中国、韓国)

い雰囲気の中で楽しく食事をしながらおしゃべりし、世界中の食文化の魅力に触れました。食事の後は、皆で協力してキッチンの片付けをしました。その後、少し休憩しながら、お互いの研究、進路や国の文化といった色々な話題で交流ができて、非常に楽しかったです。



美味しい料理を味わう様子

今回の交流会では中国、韓国、ネパール、カンボジア、タイ、スリランカの6ヶ国の母国料理を作りました。ここで、各々の料理を簡単に紹介します。

「水餃子」～中国

日本で餃子といえば焼き餃子が一般的だと思います。水餃子はそもそも焼き餃子とは別物と考えられていて、皮が少し厚めでモチモチとした食感なのが特徴です。モチモチ食感の他に、焼き餃子よりもサッパリと食べることができるのも魅力です。水餃子は体調が良くないときでも食べられるので、疲れた体を優しく労ってくれるような料理になっています。



生水餃子

「海鮮春雨鍋」～中国

広東料理の中でも有名な料理です。春雨は中国では日常的に食べられている食品です。それ自体にはほとんど味がないのですが、一緒に調理した海鮮の味を吸収し、美味しくなります。老若男女問わず人気のある料理です。



海鮮春雨鍋

「牛肉長芋煮」～中国

こちらは長芋と牛肉を煮込んだ薬膳料理です。長芋は脾を養い、胃の粘膜を保護してくれるため、生薬や薬膳料理によく使われます。牛肉は高タンパク質、低脂肪で栄養価が高く、脾胃を養い、筋肉や骨を強くする効果があります。特に冬に胃腸を温め、冷えを改善する効果があります。



牛肉長芋煮

「コーラ味付け手羽先」～中国

コーラ味付け手羽先は、主な材料は手羽先とコーラだけの簡単な料理です。美味しいだけでなく、色が鮮やかで、手羽先は柔らかく、滑らかで、塩気も程よくかすかにコーラの香りがします。



コーラ味付け手羽先

「チヂミ」～韓国

チヂミは、韓国式のお好み焼きです。小麦粉を溶いた生地にならや海鮮などの具を混ぜ込んで焼いた料理です。多めの油で薄くカリッと焼き上げます。ネギの香りとモチモチの食感が特徴で、美味しいです。



チヂミ

「チキンカレー」～ネパール

ネパール風チキンカレーは、炒めずに加えるすりおろしニンニクとすりおろし生姜の風味が、スパイスの香り、鶏肉の旨味とコクによく合い、そこにトマトの酸味が加わったさわやかなおいしいカレーです。



チキンカレー

「ガバオ」～タイ

ガバオはガバオソースで鶏の挽き肉を炒め、ライスの上に盛り付けたタイの国民的家庭料理です。鶏の旨味とガバオソースの刺激的な辛みがクセになる味わいです。付け合わせのレモンを絞ることで、爽やかな酸味が加わり、さらにタイ料理には欠かせないナンプラーをかけると、独特の辛みと旨味が加わり、本場タイの味わいをより感じることができます。



ガバオ

「ロック・ラック」～カンボジア

「ロック・ラック」は、牛肉を甘辛いタレで炒めて、たっぷりの野菜と一緒に盛りつけた健康的な料理です。日本でいう薬味感覚で、ライムと胡椒がついてくるので、お好みで加えて味を変えて楽しむことができます。



ロック・ラック

「ミルクライス」～スリランカ

ミルクライスは独特な料理です。ココナツミルクで炊いたお米なのですが、炒めた肉と一緒に食べると、とても美味しいです。最初は、ココナツミルクを入れるので、デザートのような感じになるのかと思いましたが、甘さはなく、ココナツの香りがする美味しいご飯です。



ミルクライス

食後の団らんを楽しんだ後、15時になると、ボウリング場まで歩いて移動しました。ボウリング場は東京ドームシティにあり、キッチンスタジオから徒歩で約20分でした。着いたらまず、くじ引きでボウリング大会のチーム分けをしました。全部で4つのチームを作り、各チームは竜の子のスタッフを含めて、4人で構成されています。大会を開催する前に、秋元理事長が大会のルールやボウリングの投げ方などを説明して下さいました。優勝したチームはメンバー全員に賞品が用意されています。合計スコア上位3名も別の賞品がもらえます。また女性は試合終了後、合計スコアに40点プラスできるというハンデがもらえることになりました。



皆さんでゲームに集中している様子



秋元理事長から大会ルールなどの説明

ルール説明後、15分程の練習時間が設けられました。各チームとも、ボウリングをしたことがある人としていない人がいるので、お互いに教え合いながら、楽しく練習しました。しかし、初めてボウリングをする人には意外と難しかったようで、何回練習しても上手いかなかったり、ボールを投げられなかったりして予定より時間がかかりました。

16時に大会がスタートしました。1つのゲームでは一人10フレームあり、1～9フレームまで最大2回、10フレーム目は最大3回投げられます。各チームは積極的にゲームを取り組み、自分たちが勝ちたいという気持ちで団結していました。ボウリング初心者は経験者のチームメンバーから教えてもらいながら、ゲームを楽しみました。そして、ボウリング経験者のうち何人かは3回連続でストライクを取ったりするなど、大活躍でした。

大会結果は、合計でスコアが高かった上位3名は、1位(151点)カンボジア出身のチュンホンさん、そして中国出身の媛媛さんとタイ出身のジャナットさんが同点で、2位(137点)でした。また、チームの合計点数が最も高かった優勝チームは「ウサギ」チームで、メンバー全員にスターバックスギフトカードが贈られました。皆、よく頑張ったと思います。入賞した皆さん、おめでとうございます。



優勝した「ウサギ」チーム
(左から：楊茹さん、チュンホンさん、燦宰さん)

国籍や文化など様々なバックグラウンドをもつ竜の子奨学生たちが楽しく交流できた時間は非常に有意義でした。今回の交流会で留学時代の大切な思い出を作ることができましたし、竜の子奨学生同士の仲も深まったと思います。とても幸せな交流会でした。あっという間の時間でしたが、また次の交流会で皆さんに会えるのを楽しみにしています。

(担当：令和4年度竜の子奨学生 東京電機大学 紀 淑平、
令和4年度竜の子奨学生 北海道大学 ラオ チュンホン)

SPECIAL REPORT

● スリランカ：インド洋の真珠と呼ばれる理由は？ ●

スリランカは、南アジアのインド亜大陸の南東に位置し、北インド洋に浮かぶ小さな島国です。

正式な国名は「スリランカ民主社会主義共和国」です。面積は65,610平方メートル、人口は約2200万です。



仏教のお寺

古代よりスリランカは様々な名前と呼ばれてきました。直近では1972年までセイロンの名で知られていました。また、その自然の美しさから、別名「インド洋の真珠」とも呼ばれて

います。スリランカの文書化された歴史は過去3000年にまでさかのぼります。

貿易拠点として栄えたスリランカの港は、古代シルクロードの時代から現代に至るまで、非常に重要な役割を担ってきました。

スリランカは、多くの宗教、民族、言語の本拠地である多様性の国です。シンハラ人が大多数を占めていますが、タミル人、イスラム教徒のムーア人、バーガー人、カフィール人、マレー人、アボリジニのヴァッダ人など、多くの少数民族がいます。国内には数多くの仏教遺産があり、仏教の国とも言われています。

首都スリ・ジャヤワルダナプラ・コッチェは、大統領が自らの名をとって命名したもので、国内最大都市コロンボの郊外にあります。



昔お城だった現在のお寺
(ダラダーマーリガーワ)

スリランカは、その形から「インド洋の涙のしずく」と呼ばれ、その自然の美しさから「インド洋の真珠」と呼ばれています。また「笑顔の国」とも呼ばれています。熱帯林が多く、生物多様性の高い豊かな景観が広がります。

スリランカの文化は2500年以上前にまでさかのぼり、主

に仏教とヒンズー教の影響を受けています。古代スリランカは、水力工学と建築にすぐれていたことで知られています。スリランカのすべての文化に共通する様々な伝統は、この国の長寿、高度な健康水準、高い識字率の基盤となっています。

スリランカには多くの観光地があります。インド洋に位置している島国ですので、綺麗なビーチが観光客に人気です。

内陸部にいくと綺麗な滝や高い山が多くなり、気候はだんだん涼しくなります。



スリランカのビーチ



自宅で作ったアーユルヴェーダ薬

スリランカには、有名なものがたくさんあります。紅茶、コーヒー、宝石、ココナッツ、ゴム、シナモンなどが世界的にとっても有名です。

また、スリランカには、固有の医療と治療の伝統的なスキームがあります。それは何千年の間実践され、代々受け継がれてきた処方箋です。古典的なアーユルヴェーダのテキストには、病気の存在が知られていなかった古代文明についての説明があります。それはアーユルヴェーダと人間生活のつながりをよく表しています。今日でも、アーユルヴェーダは健康を維持、促進、回復し、病気を予防する役割を果たしています。

「笑顔の国」とも呼ばれているこの小さい島は熱帯林に覆われ、生物多様性の高い多様な景観が見られます。

スリランカ固有のさまざまな動植物が生息しています。内



サファリで見た野生のゾウ

陸部に行くと、滝や山々を流れる長い川が見られます。沿岸部に行くと、古代の王たちによって作られた大きな湖が見られます。



スリランカにある海のような湖

スリランカは赤道に非常に近い熱帯の国なので、数ヶ月続くモンスーンを除いて、年間を通じて温暖な気候です。

内陸部は、国内の他の地域よりもはるかに涼しい気候ですが、それでも、太陽の光はいつも降り注いでいます。沿岸地域は暖かく、海洋の水分が空気中に含まれるため、少し湿気があります。スリランカには明確な季節はありません。モンスーン期でも、常に太陽は見られます。一般的に5月から8月と11月から2月がモンスーン期と考えられています。1年で最も寒いのは1月、最も暑いのは5月から6月頃と言われています。

海岸沿いの平均気温は26.7度です。大都市コロンボの気温も26～27度です。標高の高い内陸部は16度前後と、一年中春のような気候です。湿度は、日中が70%、夜間が90%前後で、高温多湿の気候であるといえます。

最後にスリランカの食について紹介します。主食は米で、地元の人々は毎日3食、お米を炊いて食べます。赤米と白米の両方が人気があります。スリランカでは、魚や肉をベースにした料理やその他の種類の野菜カレーをご飯に添えて頂きます。特別な行事、特に宗教的な行事の際は、米を濃厚なココナッツミルクで煮た「キリバス」と呼ばれる深い味わいとクリーミーな食感のミルクライスを作ります。

スリランカのスパイシーなカレーは、一般的に米、または「ホッパー」、「ロティ」、「ピッツ」、「ストリングホッパー」などの他の主食と一緒に食べられます。肉、魚、野菜、さらには卵まで、地元のスパイスとココナッツクリームで調理され、カレーになります。

玉ねぎ、青唐辛子、黒コショウ、カルダモン、クローブ、シナモン、サフラン、ニンニク、ショウガ、カレーリーフ、ハーブ、ナツメグがさまざまな風味と香りをもたらします。肉または魚のカレー、2種類または3種類の野菜カレー、ダール



赤米のライス、白米のライス、野菜のカレー、魚のカレーとお肉のカレー

カレー、刻んだ葉とココナッツで作ったサラダのようなカレーが揃うと、最も豪華なコースになります。

以上、スリランカの様々な情報をご紹介しました。皆さんが少しでも興味を持って下さると嬉しいです。

ありがとうございました。



竜の子近況報告



ブドウ狩り

キ エンエン
冀 媛媛 (中国)

名古屋大学 人文学研究科
人文学専攻 博士3年

「博士の口述試験を頑張ります！」

昨年の3月から博士論文の執筆をはじめ、8ヶ月を経てようやく提出しました。今思えば、大変充実した8ヶ月間でした！毎日7時半に起きて、朝ごはんを食べるとすぐ論文の執筆に取り組んでいました。時々、友達と一緒に食事をしたり、ブドウ狩りに行ったり、潮干狩りをしたりして、気分転換していました。この8ヶ月間は大変疲れましたが、このように生活の楽しさも感じながら過ごしました。やはり持つべきものは友です！博士口述試験も頑張ります！



ポルトガル・リスボンのアルファマ地区にて

ラオ チュンホン (カンボジア)

北海道大学 工学院研究科
建築都市デザイン専攻 修士2年

「論文執筆」

昨年7月にInnovathon (24時間以内にアイデアをまとめるコンペ) で、ポルトガルへ行ってきました。初めてのヨーロッパでしたが、これまで学んできた西洋建築をめぐることができて、深く感動しました。そして、夏休みの間に修論の調査として、観察調査やインタビューをするためにカンボジアに帰国しました。コロナ以降2年ぶりに家族や友達と再会できてうれしかったです。その後は、データ分析を踏まえ、論文を執筆しました。冬の間もコツコツと書き進め、最後まで頑張ることが出来ました。



支笏湖において (本人右側)

オウ カネイ
王 佳寧 (中国)

北海道大学 教育学院
教育行政学専攻 博士3年

「無事博論を提出できました」

皆去年の10月に博論を出してから、約3ヶ月間の予備審査と修正を経て、先日ようやく無事正式に提出しました。博論の修正にあたって、いろいろ大変なことはありましたが、その過程で研究の厳密さとおもしろさを知り、さらに論文修正終了後の達成感を感じることが出来ました。ここからは公開発表会の準備や就職活動に向けて頑張ります。

プライベートでは、北海道の長い冬が来る前に、友達と一緒に札幌近くの支笏湖へドライブに行ってきました。高い透明度と特有の青さを誇る支笏湖の美しさに癒されました！



ブルーノ・マーズのコンサートでの私

シュレスタ シモナ
SHRESTHA SIMONA (ネパール)

立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部
国政経営学科 学部4年

「東京での最初の学期」

東京で修士課程の学生として最初の学期を迎えました。忙しい生活に慣れようと頑張っています。修士課程の学生生活は、色々な面でこれまでとは違っていますが、とても楽しいです。自分の研究テーマについて新しいことを学べるようになると、もっといろいろなことを学びたいと思うようになります。

プライベートでは先日、東京で行われたブルーノ・マーズのコンサートに行ってきました。私は以前から彼のファンなので、生で彼の歌を聴くことが出来て、とても嬉しかったです。とても楽しいひとときでした。



山頂で休憩中

ホウ コウヘイ
彭 浩萍 (中国)

東北大学 医学系研究科
保健学専攻 修士2年

「一日中運動量マックス」

修士論文を提出した後、友達と一緒にスノーボードに行きました。ずっと運動不足だったのですが、この日一気に一週間分ぐらいの運動をしました。疲れましたが楽しかったです。

帰る前に、初心者には難しい林間コースに挑戦してみました。結局、曲がり道でけっこう転んでしまい、半分ぐらいはボードを外して歩くことになりました。ちゃんと練習しないとだめなんだなあと感じました。山頂からの眺めは絶景で、登ってよかったと思いました。

論文審査が終わったら、またスノーボードに行きたいと思っています。



富山湾の景色

ゾウ カシン
鄒 可昕 (中国)

京都大学 人間環境学研究科
相関環境学専攻 博士1年

「初の現地学会」

皆さま、お久しぶりです。

博士一年生の9月になって、ようやく対面で学会発表する機会に恵まれました。

以前から何回も学会にはオンラインで参加していたのですが、あまり「イベント」としての実感がありませんでした。

なので、今回は何百人という人の前で自分の研究を発表することができてとても楽しかったです。事前の練習はちょっと辛かったですが…。

そしてせっかくの機会なので、この四日間で多くの先端知識を吸収するだけでなく、学会が行われた富山の地元の美食もいっぱい享受しました。

特に富山の白エビ料理は本当に美味しかったです。富山を訪れる機会がありましたら、みなさんもぜひ食べてみてください！



大須観音で初詣

クオン ヒョツチェ
權 赫宰 (韓国)

名古屋大学 工学研究科
機械システム工学専攻 修士1年

「穏やかな年末年始を過ごしました」

年末年始は大学が休みなので、いつもは他の地域に遊びに行ったり、人が大勢集まる神社を訪れて新年を迎えたいのですが、コロナの懸念もあるため、今年の年明けは、家の近くの神社に初詣に行ってきました。今年も平和で、研究も就職活動も上手く行きますように、と祈りました。皆さんも素晴らしい一年になりますようお祈りいたします。

また、日本では年末にすき焼きをよく食べるということを最近初めて知ったので、作って食べながら幸せな年末を過ごしました。

年が明けて1週間経つと元の生活に戻り、研究や最終課題に取り組んでいました。大学院生活を頑張りながら、また皆さんに会えることを楽しみにしています。



高尾山の団子
(本人右側)

キ シュクヘイ
紀 淑平 (中国)

東京電機大学 工学研究科
物質工学専攻 修士2年

「修論を頑張りました」

去年の11月に、研究室の同期と一緒に高尾山に登りました。久しぶりの登山で、運動不足の私は結構大変でしたが、楽しかったです。

また、自分の研究についての実験をすべて終わらせ、3年間の研究成果をまとめて、修論を頑張りました。4月から社会人になるので、最後の学生生活を大切に過ごしていきます。



大文字山での夕日（本人右端）

サイ レイ カ
崔 麗華（中国）

京都大学 農学研究科
森林科学専攻 博士3年

「2022年最後のサンセット」

博論を提出して軽やかな気持ちで2023年を迎えることができました。まだまだ発表準備で戦いは続くと思いますが、最後まで頑張りたいと思っています。

京都の大文字山は、博士課程がスタートして以来、ストレスを発散するためによく登っています。大学からも近く、30分ぐらいで気軽に登れる山で、そこから見る夕日や夜景は最高です。2022年の最後の日にも大文字山に登り、夕日を見ることが出来ました。皆さんも京都に来る機会がありましたら、ぜひ登ってみてください。



友達と初詣に行きました

ヨウ ジョ
楊 茹（中国）

九州大学 生物資源環境科学府
環境農学専攻 博士3年

「最後の学生生活を楽しんでいます」

無口な指導教員と後輩の距離を縮めたいと思い、私の提案で、2022年4月から週に一回、コーヒーゼミを行っています。コーヒーを飲みながらbiogeochemicalという本を中心にみんなで勉強しながら議論したり、時にはそれぞれの研究の悩みに対する解決法をみんなで考えたり、お互いのプライベートの話をしたりして楽しむことができました。

この春から社会人になるので、心の準備をしながら、最後の学生としての研究生活を送っています。社会人になっても初心を忘れずに頑張っていきたいと思っています。



仲良くスノボした（？）

テ エ ラ グ ル ジャ ナ ッ ト
TAERAKUL JANAT（タイ）

東京工業大学 環境・社会理工学院
融合理工学系学科 学部4年

「弟との再会」

2021年の7月に日本語能力試験1級を受験しました。92点を取れましたが合格ラインにはわずかに満たず残念ながら不合格でした。そして去年の12月に、試験に再挑戦してみました。合格できるかどうかはわかりませんが、前回よりできた気がします。

試験後、卒業論文を頑張って仕上げました。また1月上旬に、弟が日本に来ました。半年ぶりの再会だったので、いろいろ話しました。そして、スノーボードに連れて行きました。彼は運動神経が良いので、たった1日で速く滑れるほど上達しました。



睡眠の質が低いワタシ

テイ ショウ
鄭 翔（中国）

東京大学 新領域創成科学研究科
国際協力学専攻 修士2年

「研究苦闘」

皆さん、お久しぶりです。

皆さんと会えない間に、ドラマ「宮廷の諍い女」を観ながら、少しずつ修論を仕上げました。修論に取り組んでいる間、恋愛運がよくなって不思議だと思いました。また、ジムによく通って鍛えたので、筋肉も少しずつついてきました。コロナの影響で大学院生活において社交活動がだいぶ減ってしまい、以前のように皆とコミュニケーションがとれない状況でも、親しくしてくれる友達に感謝しています。研究はまだ終わっていませんが、これからも引き続き頑張っていきたいと思っています。

またみなさんと会えることを楽しみにしております。

「帰国したように感じました」



沖縄のビーチ

マリカーラチュチ チャーミラ (スリランカ)

早稲田大学 大学国際コミュニケーション
研究科 修士2年

昨年12月に沖縄に旅行しました。卒業論文で忙しい時期でしたが、休みを取って沖縄へ行くことに決めました。

沖縄は日本の他の地域とは全く違っていました。たくさんの熱帯の動物、木、果物、野菜を見て、自分の国に帰ったかのような気分になりました。

美しい海の景色が東京での忙しい生活を忘れさせてくれました。海は青く美しく、気候は暖かかったです。

沖縄の人々はあまり忙しそうではなく、平和で静かな生活を送っているように感じました。

ホテルの部屋から見えた那覇港の夜景がとても綺麗で静かで気に入りました。

海風に吹かれていると、母国に帰りたくなりました。

また、南国ならではの沖縄の食べ物や果物も好きになりました。今年は母国に帰ることが出来ませんでしたが、沖縄に行くことが出来るととても幸せです。



サンタモニカビーチにて

張 惜来 (中国)

一橋大学 経済学部4年

「最高の旅」

2022年8月から、より広い世界で学びたいと思い、カリフォルニア大学バークレー校で学んでいます。毎日が忙しく、あっという間に滞在生活も終盤を迎えました。アメリカでは、色々な出会いがあり、世界中の文化と触れ合えました。バークレー校は、さすが世界最高レベルを誇る学府で、教育資源の充実度はトップクラスでした。カリフォルニアを心から好きになり、いつかここで働きたいと感じました。バークレーで視野が広がり、自分も必ず世界で活躍できるという揺るぎない自信を築くことが出来ました。素晴らしい経験でした。

(担当：令和4年竜の子奨学生 東京工業大学 テセラグル ジャナット)

ご寄付いただいた皆様へ

この度は竜の子財団の奨学生を代表として、寄付して下さいました皆様へ心から感謝の言葉を申し上げます。

私たちはそれぞれの夢を持ち、その夢で世界を変えたいと思い、日本へ留学してきました。竜の子財団の皆様の支援のおかげで、金銭面だけでなく、精神面も支えて頂いて、充実した日本での生活を送ることができました。

また、交流会を通して日常生活では味わえない日本の文化を深く学んだり、奨学生の仲間たちと留学生活の喜びや辛さを共有することもできました。私たちは日々努力を重ねて、日本で身に付けた知識や経験などを通して、少しでも世界で活躍できるように、これからも一生懸命頑張っていきたいと思っております。

重ねてお礼を申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(平成4年度竜の子奨学生 北海道大学 ラオ チュンホン)



竜の子(OB・OG)近況報告



AI (MidJourney) で描いた竜の子のみんなです～
ギ トウキ
魏 登輝 (中国)
東京外国語大学卒業

「AI絵画に挑戦してみました～」

竜の子の皆さん、ご無沙汰しています。
昨年末、年内の仕事をほぼ片付けて余裕が出来た頃から、AI絵画にはまってしまいました。最先端技術の進歩に驚きつつも、本業のプロジェクト宣伝などにどう活用できるのかと段々本気で考えるようになりました。普段の仕事で溜まったストレスを発散させる効果もあるので、皆さんもぜひ試してみてくださいね～



愛車「Serengeti」くんです。
シン チュウカ
申 中華 (中国)
東京大学卒業

「キャンピングカーを入手しました」

竜の子の皆様、お久しぶりです。
私は現在、日本の某精密機器を製造販売している企業で海外営業の仕事をしています。仕事の内容は、英語圏のお客様からもらった技術問合せを研究開発部門に日本語で伝え、またその解答を英語でお客様側に説明することです。疲労困憊を感じる日もありますが、お客様から「Thanks to your help, Shen! 」と言われるたびに、大変働きがいのある仕事だと感じます。
仕事の気分転換として、普段からキャンプや旅行が大好きでよく出かけていたのですが、昨年4月、ついにキャンピングカーを入手しました。もし街でキャンピングカーに乗った私を見かけたら、声をかけてくださいね。



特殊教育科の学生が高校生に手話を教える会を開きました。
キム ウンハ
金 恩河 (韓国)
筑波大学卒業

「仕事も育児も頑張っています」

皆さんご無沙汰しております。私は韓国の昌源大学（チャンウォン大学）の特殊教育科で働き始めて5年目になります。一昨年、二人目の子どもを出産して育休で休んでいたのですが、昨年復帰しました。二人の子どものママとして、また大学の教員として頑張っている。専門が聴覚障害児の認知発達なので、昨年からは研究費をとって聴覚障害児の視覚的情報利用について眼球運動を追跡して分析する研究も始めました。また、大学の学生たちの課外活動としてCODA（Children of Deaf Adult）の読書活動、バリアフリー講演の観覧などを一緒に行っています。学生たちを見ていると自分の大学時代を思い出しますが、竜の子奨学生でよかったと思います。特に夏の交流会はとても息抜きになって、勉強に専念するエネルギーをもらえたことが良い思い出です。またOB会で皆さんに会えることを楽しみにしています。ぜひ会いましょう！



太地町立くじらの博物館を見学しました。
マハウォンウィリヤ スタシニー (タイ)
東海大学卒業

「仕事をしながら学校に」

昨年の4月から東京海洋大学で国際海洋政策について研究しています。10月には和歌山県東牟婁郡太地町を訪れ、捕鯨問題について勉強したり、実際に国際会議に参加した先生方のお話を聞くことができ、楽しかったです。今は仕事をしながら学校に通っていますが、仕事においてもとても充実している日々で、2年前から日本翻訳連盟主催の翻訳祭に実行委員として参加させていただいています。今年も開催する予定なので興味のある方はぜひご参加ください！



委員長 北海道大学 ラオ チュンホン

この度、「竜の子奨学生」第30号の編集委員長を務めさせていただきました。今回、編集委員たちはそれぞれの論文執筆の時期でしたが、お互いに協力し合いながら、最後まで仕上げることができました。編集活動を通じて、いい思い出ができたと思います。特に、第一回の対面会議が終わった後、一緒にもんじゃ焼きを食べに行ったり、作業を進める中で色々話し合ったり、様々な「一期一会」の体験が出来たことはとても幸せだと思いました。編集のプロの方々から大変ありがたいご指導をいただきながら、編集委員全員の協力で、無事に全ての作業を終わらせることができ、大変満足しています。この貴重なチャンスを下さった竜の子財団の関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

委員 名古屋大学 冀 媛媛

こんにちは。この度、財団会誌の編集委員として、会誌の作成に参加出来るとも光栄に思います。私は、第42回の交流会のページを担当いたしました。作成する際に、交流会当時の写真をもう一度収集しました。写真を確認するうちに、思い出がよみがえり、とても楽しく作成することが出来ました。竜の子財団の奨学生に選ばれ、財団の皆様と一緒に思い出作りが出来る日々をとても幸せに思っております。

委員 早稲田大学 マリカーラチュチ チャーミラ

この度は、「竜の子奨学生」第30号会報誌の編集委員を担当させていただき、とても光栄です。毎回編集会議に参加して、いろいろなことを話し合い、貴重な経験が出来ました。編集委員の皆様と一緒に頑張ったおかげで、とても面白い本会報誌が完成したと思います。今回、スリランカについてスペシャルレポートを書きました。スリランカについて、皆様と共有できてとても嬉しいです。心から感謝をいたします。

委員 東京電機大学 紀 淑平

皆さん、こんにちは。今回、会報誌の編集委員を担当し、『母国料理交流会』のレポートかつ料理説明文を編集致しました。初めて会報誌を編集して、非常に貴重な経験を得られました。現在、私は修士論文を提出し、大学生活が無事に終わり、とても嬉しく思っています。奨学生の皆さんのこれからのご活躍をお祈りしています。

委員 東京工業大学 テェラグル ジャナット

皆さん、こんにちは。会報誌の編集は初めてでしたが、とても良い経験になりました。今回、編集部の一員になれて光栄です。私は近況報告を担当しました。みなさんの元気な近況報告を読んで、私も元気をもらえました。竜の子財団の奨学生も今年で最後ですので、残された時間を大切にしたいと思います。1年という短い間でしたが、みなさんと出会えて楽しかったです。



第一回編集会議後にて



第二回編集会議



第三回編集会議



「その夢はきっと世界を変えていく」

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず